

平成24年度第1回瑞穂町廃棄物減量等推進審議会 次第

日時：平成24年8月3日午後1時30分～

場所：みずほりサイクルプラザ2階研修室

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 瑞穂町のごみの現状について（報告）

(2) 燃やせるごみ減量のための取り組みについて

(3) その他

4 閉 会

瑞穂町のごみ総量(直近3年間分)

平成21年度(21.4.1-22.3.31)

可燃ごみ (5,861t)	不燃ごみ (328t)	資源ごみ (2,903t)	粗大ごみ (468t)	事業可燃ごみ (2,106t)
129t減	±0t	25t減	有害ごみ (18t) 15t増	318t減
			±0t	

平成22年度(22.4.1-23.3.31)

可燃ごみ (5,732t)	不燃ごみ (328t)	資源ごみ (2,878t)	粗大ごみ (483t)	事業可燃ごみ (1,788t)
96t増	17t増	45t増	有害ごみ (18t) 15t増	24t増
			1t増	

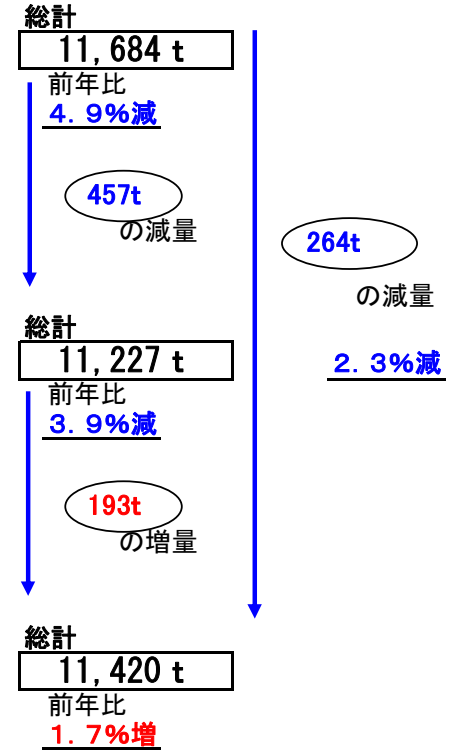
平成23年度(23.4.1-24.3.31)

可燃ごみ (5,828t)	不燃ごみ (345t)	資源ごみ (2,923t)	粗大ごみ (493t)	事業可燃ごみ (1,812t)
			有害ごみ(19t)	

資源ごみ…カン、ビン、金属、ガラス、新聞、雑誌、段ボール、紙パック、布類、雑がみ、ペットボトル、容器包装プラスチック

有害ごみ…電池、蛍光灯、電球、水銀体温計、温度計、ライター、スプレー缶、カセットボンベ

事業可燃ごみ…瑞穂町内にある、事業者から排出される可燃ごみ



平成22年度は21年度比で3.9%減、また平成23年度は22年度比で1.7%増となり、2年間では2.3%程度の減になっています。
 23年度はすべての種類のごみが増加してしまいましたが、中でも特に燃やせるごみが増えました。
 ここ数年減量の一途をたどっていたごみ総量が増加に転じたということで、これが単年度的な動きなのか、ここから反転して増加傾向に転じるのかということ意識しながら、焼却ごみ、埋立ごみを減らし、リサイクルを推進していくためにも、今後も引き続き動向を注視し、減量への取組を推進していく必要があります。

生ごみの減量化推進策について ～ダンボールコンポストの啓発推進～

平成22年度に比べて、23年度は生ごみを含む燃やせるごみが一日一人当たり11.1g増加しました。(速報値)

そこで、燃やせるごみの中でも約30%を占めるといわれている生ごみ(木・草含む)を減量する施策を推進するため、「ダンボールコンポスト」の各ご家庭への普及を目指し、啓発活動を推進していくことを考えました。

1 ダンボールコンポストについて

(1) ダンボールコンポストとは？

「コンポスト」とは、「生ごみなどの有機性廃棄物からできた堆肥、又は堆肥化手法のこと」をいいます。このように、生ごみを堆肥化する道具としてダンボールを材料として使用することから、「ダンボールコンポスト」と呼ばれています。

コンポストには、他に「設置型」や「密閉容器型」、「電動処理型」などがありますが、比較的安価でありどなたでも導入しやすいことをとらえ、今回はダンボールコンポストを選択しました。

(2) ダンボールコンポストの特徴

ダンボールコンポストは、容器として使用するダンボールが安価かつ入手しやすい点と、堆肥化に必要とされる保湿性と余剰水分を壁面から排出できる水分調整機能を持ち、経済面と機能面で優れています。また、悪臭が発生しにくいこともあげられます。

ただし、ダンボールであることから、耐久性に問題があります(水気に弱い・3ヶ月を目安に交換)。また、完全な防虫が困難であるため、屋外設置が原則になります。

(3) ダンボールコンポストの作り方と使用方法

別紙「ダンボールコンポストの作り方」(出典：北海道帯広市ホームページ(環境部清掃事業課)より)なお、今回審議会に資料として使用することについては電話にて承諾済み)を参照してください。

(4) ダンボールコンポストを使用した場合の減量効果について

ダンボールコンポストには、一日500g程度まで生ごみを入れることができます。それが発酵分解され、おおむね3ヶ月間は同じダンボールで堆肥を作成することができます。その間、発酵分解の状況にもよりますが、ダンボールから生ごみがあふれるなどのことはありません。

となると、1家庭単位で最大限利用できた場合を基準に計算した場合、その減量効果は、

$$500\text{g}(1\text{日}) \times 3\text{ヶ月}(90\text{日}) = 45,000\text{g} (\doteq 45\text{kg})$$

ということで、**3ヶ月で1家庭あたり45kg**の減量になります。

2 啓発方法について

- (1) 広報（定期的に）
- (2) 町ホームページに掲載
- (3) 簡易的なチラシ・作成方法のご案内を作成し、窓口配布

災害廃棄物広域処理施設周辺住民 被災地見学会

1 主催及び協力

(主催) 宮城県、環境省 (協力) 宮城県女川町、宮城県石巻市、東京都

2 日時

平成24年7月13日(金)から7月14日(土)まで (一泊二日)

3 場所

宮城県石巻市及び女川町

4 参加者(対象者)

災害廃棄物の広域処理を実施している清掃工場等の周辺住民等(随行者含む。)。町からの参加者は、瑞穂町環境問題連絡協議会から6名、羽村九町内会自治会生活環境保全協議会元会員2名の計8名と、遂行として町職員2名(田辺住民部長、臼井環境課長)が参加した。

- 参加者合計人数 76名(大型バス2台、1号車と2号車で見学順等が異なる。瑞穂町は1号車に乗車)

5 実施目的

広域処理を実施又は予定している清掃工場等の周辺住民等が被災地における災害廃棄物処理の現場視察及び被災地住民との意見交換等を通じて、広域処理の推進に理解を深め協力を得ることを目的とする。

6 実施工程概要(1号車)

(1) 7月13日(金)

- ① 西多摩衛生組合出発
- ② 多摩ニュータウン環境組合出発
- ③ 説明会(宮城県庁講堂) 説明終了(仙台市内宿泊)

(2) 7月14日(土)

- ① ホテル出発
- ② 石巻市雲雀野埠頭二次仮置場(選別施設・仮設炉)見学(同場所で昼食後移動)
- ③ 女川町災害廃棄物選別処理施設見学
- ④ 女川町民との交流会
- ⑤ 女川町出発(途中休憩、夕食)
- ⑥ 西多摩衛生組合着 解散

災害廃棄物広域処理施設周辺住民 被災地見学会報告

視察先 宮城県石巻市・女川町
日 程 平成24年7月13日(金)～14日(土)



西多摩衛生組合を出発



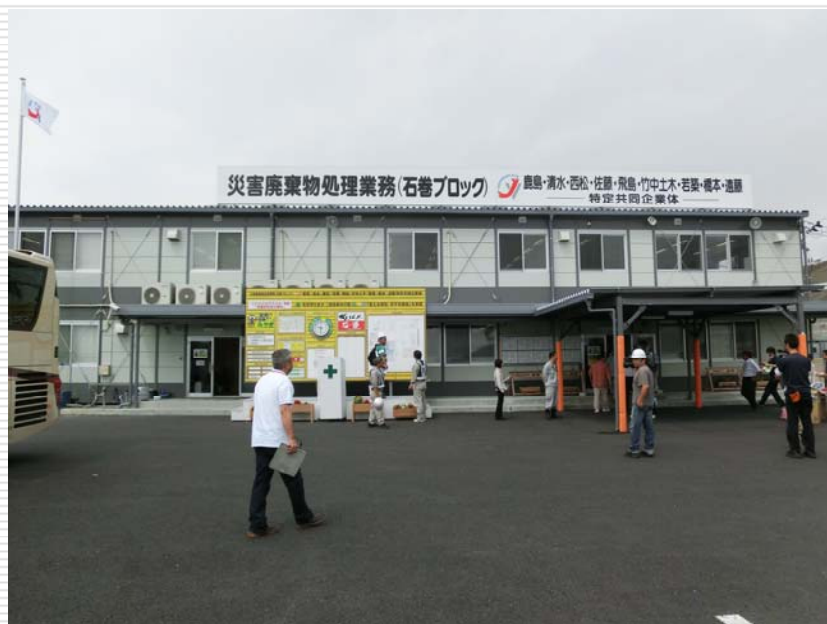
多摩ニュータウン環境組合・高速道路休憩



宮城県庁講堂での説明会



石巻市雲雀野埠頭二次仮置場(事務所)



二次仮置場見学



マスコミ取材対応（住民部長）



廃置(手前)



処理施設見学



焼却施設(ロータリーキルン)



焼却施設(ストーカー)



バスからの石巻市



女川町災害廃棄物選別処理施設見学 (事務所)



放射線測定値説明



混合廃棄物処理施設



篩(ふるい)選別ライン



手選別ライン



選別後(木材)



空間放射線量率の測定



空間放射線量率の測定



選別後(金属類)



篩選別後(土砂等)



試料の遮蔽線量測定



コンテナへの積込



コンテナ積込後の空間線量率測定、 コンテナ搬出



女川町民との交流(意見交換会)



西多摩衛生組合搬入状況



西多摩衛生組合搬入状況

